

理事長のご挨拶



学校法人常磐会学園理事長
岡本 和恵

学校法人常磐会学園は、常磐会幼稚園、常磐会幼稚園教員養成所の事業活動の中で、昭和30（1955）年に設立され発足しました。その後、短期大学、付属園、大学、こどもセンターと拡大を続けて以来、2年後の令和7（2025）年に学園発足70周年を迎えます。この節目に、乳幼児教育と初等教育のより一層の充実発展を目指したいと考えています。

本学園の中期計画に沿って、全教職員が真剣な議論を重ね、新しい形を創造しようと統合への準備を進めて、緻密な検討を重ねてまいります。

今、社会も教育も大きく動いています。3年余りにわたるコロナウィルス感染症によって、学園での生活が制限されましたが、そのような中であつても学生・園児は自分らしい学びをそれぞれに重ねてまいりました。校是「和平 知天 創造」を基に今こそ乳幼児教育・初等教育をリードする人材を育てる本学園の意義は大きいと考えています。

「教育と保育の常磐会」として伝統を踏まえながらも、これからの時代にふさわしい教育を創造し飛躍します。どうぞご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大学学長のご挨拶



常磐会学園大学学長 大森 彰

常磐会学園大学では、「子どもと教育者を育てる」ことを目標としています。共感できる実践力のある保育者・教職員の愛情が学生に伝わり、子どもたちを大切に育てる保育士・教員を育てます。厳しさを含めて教育的愛情が循環していく大学でありたいです。

校是である「和平・知天・創造」をもとに多様性の尊重と包摂性の促進を理念のひとつに掲げています。更に、時代のニーズのあった特色ある大学づくりに努めています。ネイティブスピーカーの先生方を交えて英語力を高め、ICTを活用した授業づくりを進めていきます。「この大学に入学してよかった」と思える大学でありたいです。

また、地域の方々とつながり「平野の地に常磐会があつてよかった」思ってもらえる地域社会に貢献する大学づくりを進めます。

誇りある常磐会の伝統を胸に、教育への情熱と使命感を携えた人材の育成を目指していきます。令和七年度に短期大学と学園大学が統合されます。統合に向けて、全力で取り組む所存でおります。皆様方のご理解ご支援を切にお願い申し上げます。

短期大学学長のご挨拶



常磐会短期大学学長 農野 寛治

近年、この不確実な時代の中で、私たちの日常生活や社会活動に大きく影響を与えている物事に対する考え方、取り組む態度や行動などの「非認知的能力」の育成が重要だと指摘されています。「和平・知天・創造」という建学の精神を掲げる常磐会学園は、まさにそのような資質を育む理想の学園として生まれ、現在に至っています。少

子化の時代にあつて幼児期の子どものしつかりと育む資質の高い保育者の存在は、ますます求められています。そのような専門職の育成は、教職員だけではなく、在校生や卒業生、実習先の指導者の方々や地域の方々との協働など、みんなの力をあわせた取り組みを進め、この伝統をまもり新たな歴史を創っていくことが常磐会学園の使命であると考えています。

『茨木高美幼稚園新園舎完成』

～子どもたちの夢をつなぐ学び舎となっていくます～



桜の花びらが舞う2階テラス



築山でゴロゴロ転がって遊ぶ5歳児



明るく開放的なたかみホール



2年に渡る旧園舎の解体の新園舎の建て替え工事。ついに、令和5年2月24日竣工式を迎えることができました。「かつてい丈夫でおしゃれな幼稚園を作ったほしい」「ぐるぐるどきどきでも行ける遊べる幼稚園に生まれ変わった当時3歳児だった年長児がこの春、できたばかりの幼稚園中を遊び場に存分に楽しみ「また遊びに来たい」と再会を約束して修了児として巣立っていきました。子どもと教職員の新しい幼稚園への夢を一緒に叶えてくださった工事関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

新園舎のエントランスを入ると子育て支援室と絵本コーナー、3階かけっこ広場に続くぐるぐる階段が目に入ります。初めて来た子どもたちは、すぐに遊びを見つけて動き出したくなります。そして、1階に低年齢児保育室、調理の様子が見えるガラス張りの給食室、親子で送迎時にゆったりと過ごせるコミュニティスペース、2階には地域の方の利用もできるたかみホール（遊戯室）があります。園庭には、季節感を感じる樹木、築山、砂場、ヤギのいる飼育小屋：これからの保育・教育の充実と地域のニーズに応える茨木高美幼稚園の運営は、教職員の創意工夫、そしてチーム力が試されるものと気が引き締まる思いです。

令和5年4月より認定こども園として新たなスタートをします。教職員も心地よくそして効率よく仕事ができる環境が整いました。ますますパワーアップして茨木高美幼稚園の新しい歴史を刻んでいくと夢を膨らませています。

常磐会精神って何？

本学の校是「和平 知天 創造」は、私たち保育・教育に携わる者が備えるべき精神を示しています。そのとらえ方は、大切なことを受け継ぎながらも時代につれ、世情につれ、心持ちにつれ変化しながら一人ひとりの心の中にあるでしょう。

2022年7月6日(水)岡本理事長の発案で「校是を書で表現しよう」の会が開催されました。書道の腕に覚えのある17人の人が参加し、それぞれのこぼれで表してくれました。

あなたも3つのこぼれに生命を吹き込みましょう。

「和平」国や世代を超えて、様々な文化や考え方を持

つ人と積極的にかかわり、よりよい関係を作り、深いつながりを生み出せる人であれ

「知天」教育や保育を担うものとして、使命感や責任感を持ち、実践者として求められるものを常に振り返ることが出来る人であれ

「創造」教育や保育を担うものとして、自ら積極的に学ぶ姿勢を持ち、創造と工夫を生涯続けることができる人であれ

知天

和平

創造



今年度は授業がほぼ以前の通常の形式で行うことができたことや、実習でも保育や福祉の現場の皆さまの力をお借りしながら従前の形で実施できるなど、本来の短期大学での学びや活気が徐々に戻ってきたように感じています。そしてそのような中で、学生たちも大学生活らしい学生生活を送れるようになってきていることも嬉しく思っています。

ここ数年、思うように実施できていなかった行事においては、感染症対策を行いながらではありますが、6月には1回生が地域の子どもたちに向けてゲームや催し物を考えたイベント「みんなあつまれときわかい」を行ったり、10月の「文化祭」では、昨年に引き続き学園大学と合同で行うプログラムを含め、各クラスが趣向を凝らした企画で来校した子どもたちを楽しんでもらう場を作ったりしながら、保育者養成大学としての学びも踏まえた行事を楽しみました。

その他にも、12月にはクラスで団結して、学年を越えていろいろなスポーツの種目に挑戦する「スポーツフェス」も行いました。スポーツを楽しむ姿には、授業で見せる学生たちとはまた違う表情が垣間見られ、スポーツの楽しさやクラスで団結して行うことの楽しさを感じられるよい機会になったと思います。

授業や実習、行事など、忙しい中でも友人や一緒の目標を持つ仲間との時間を過ごすことで、これからの学生生活の充実や社会人としての1歩につなげてほしいと願います。



十一月に年長組が短大に散歩に行った際いただいたカリン。氷砂糖で漬けると二ヶ月後おいしいカリンシロップができました。シロップから作るカリンジューズを心待ちにしていた子どもたちにはさあどんなタイミングでジュースを飲ませるか。カリン「喉にいい。という事が「最近歌うのが楽しい」「気持ちいい」と感じている子どもたちには何かしら刺激になったらいいな」と思っていたのは、カリンジューズを飲んだ先生たちの本気の歌声を子どもたちに聞かせる。というものでした。会の後ジュースを飲んだ子どもたちも早速効果あり！各々に「あー」「あー」その後は、いい声を披露する子どもたちが続出し、今も「歌うの大好き」が続いています。

出来上がったシロップは年長組が後日短大に届けました。寒空の下、理事長先生、学長先生、事務局長先生他、多くの先生方、学生さんが出迎えてくださる中、短大の中庭で（自稱いい声）で園歌を披露し、たくさんの方の拍手をいただいていたカリンは年長組が自分たちで漬けて、三学期にジュース屋さんとして全園児に振舞ってくれました。（HP参照）

「カリン」から繋がって広がった子どもたちの世界は、予想を超えた深いものとなり、そこから生まれた子どもたちの活動の中で子どもたちのたくさんの発見や育ちに気づくことができました。環境を通していろいろな方向に進んでいく保育を実践し、身近に感ずることで、職員皆で改めて「環境」の大切さ保育を展開する面白さを感じました。常磐会幼稚園の子どもも先生も、わくわくする生活を毎日楽しんでいきます。



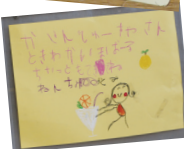
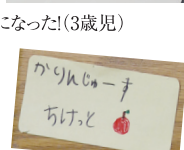
ジュースを飲んだらもったい声になった!(3歳児)



ジュース屋さん開店前日にはポスターとチケット作り!



短大にカリンシロップと歌を届けに(5歳児)



「今年も園庭にドングリが沢山落ちてきました！」と常磐会幼稚園の大森園長先生にお話しすると「うちはそんなにたくさんドングリがないからいいね…」と話されていました。このことを子ども達に伝えようと、「えっ そうなん！」「えっ ぜんぜんないん？」「こっち めっちゃあるで！」とビックリの子も達！ドングリが「ない」ということ、そんなことがあるのか！という反応でした。これを聞いた子ども達からは、「じゃあ あげたら！」「とってきたらか？」「とりに来たらいいやん！」とうれしい声が聞こえてきて、すぐにドングリを拾いに行っていました。外で遊んでいる時に見つけたドングリを職員室に届けてくれる子ども達。そんな子どもの姿から「どんぐりポスト」を職員室前に置くことにしました。

すると…。お散歩で見つけてきたドングリを「ポトン」「ポトン」1個ずつ入れるのを楽しんだり「どんだけ入ってるかな…？」とポストの入り口から中をのぞいたり「これも入れていいかな？!!」とドングリを帽子やお散歩の時に見つけてきた黄色や赤に色づく落ち葉を入れる子どもの姿も：沢山集まったのでドングリと子ども達がいっぱい！「よかった！」と満足そうな子ども達も達でした。また、中にはもうすぐクリスマスということでサンタの折り紙もたくさん入れて送ってくれました。

恵まれた自然の中でのびのびと遊ぶいずみがおか幼稚園の子ども達。秋になれば当たり前のようにドングリがあることが「ドングリがない」幼稚園があることを知って、ありがたいことだと感じたことだと思います。また、今回ドングリをきっかけに常磐会幼稚園と保育での交流が出来たことはよかったので、今後は茨木高美幼稚園も含めた3園での子ども達の交流が出来ればと思います。



感染対策にも慣れ、昨年の午前午後各12組という枠をそれぞれ20組まで緩和し、事業に取り組んでいます。毎月の『ブックスタート』に加えて『健康の話』『わらべ歌』『伝承遊び』など様々な講座を開いています。また令和4年度は、常磐会幼稚園と連携をとり、園庭開放の時など『つどいの広場ときわつこ』に遊びに来た親子も一緒に広い園庭で遊べるようにしています。子どもにとって広い園庭や安全な砂場は魅力的。また保護者の方にとっては園の様子を知ってもらえる機会になっています。令和5年度には『つどいの広場ときわつこ』の事業は常磐会幼稚園に移管されます。常磐会幼稚園内という立地を活かし、今まで以上に幼稚園と連携をとり、つども子育て中の方が足を運べるような魅力的な集いの場になるようにしていきたいです。



大学・短大 学園祭(文化祭)

2022年10月22日(土)常磐会学園大学「トキガク祭」、常磐会短期大学「文化祭」が3年ぶりに、対面開催で実現しました。学園大学は「二期会」、短期大学は「距離は遠く、心は近く」をテーマに掲げ、各クラス、ゼミ、クラブサークルが、地域の子どもたちにも楽しんでいただけるような模擬店や舞台発表を企画し、取り組みました。野外ステージではよしもとライプやクイズ大会、大アリーナでは有志やクラブによる歌やダンスが行われました。

大学・短大の合同企画ファッションショーをはじめとするステージ発表には、たくさんの方の拍手が送られました。スタンプリリーや模擬店では、子どもたちの喜ぶ声や笑顔であふれていました。コロナ禍により、さまざまな制限があった大学生活ですが、学生たちが仲間や教職員、地域の方々と関わることでできる喜びを感じながら、トキガク祭・文化祭を楽しむ姿が非常に印象的でした。



令和4年7月に教員免許状更新講習が発展的解消となりました。本学園は教員免許更新制の発展的解消後も、小学校・幼稚園(保育)教諭及び保育士の方が初等教育・幼児教育及び保育について、継続して学べる場が必要であると考えております。そこで「新たな学び」と題し、2022年度は興味のある講習を選択して好きな時間に学んでいただける、オンデマンド配信型のオンライン講習を開催しました。これまでの教員免許状更新講習で培った本学園の学習コンテンツを活かし、2022年度は23講習で9月下旬から申込を開始しました。視聴期間は2月末までとし、課題提出により受講認定を行いました。

受講された方の中には、保育園や認定こども園でまとめて申し込んでいた例もありました。受講生からは、「分かりやすい内容でコロナ禍の中で研修の機会があつて良かった」、「沢山のことを学び、考え、行動に移さなければならぬ」といった等の前向きな意見や、講習に対する高い満足度と評価をいただきました。今後も本学園は、学び続ける教諭及び保育士の方に「学びの場」を継続して提供することで、現場で悩む、全力で子どもに向き合っている先生方を支援していきたいと思っています。2023年度も開催予定です。開催時期など詳細につきましては、常磐会短期大学ホームページでお知らせします。

